NUAL

名古屋大学全学同窓会
NAGOYA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION

Newsletter

No.16 平成 23(2011)年 10 月

NUAL（ニューアル）は Nagoya University Alumni Association の略称です。

今年の名大祭の様子

Contents

特集1 名大祭のいま ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
The Current State of Meidaisai

特集2 活躍する名大生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
Nagoya University Students in Action

同窓会ニュース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
NUAL News

事務局からのお知らせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
From the NUAL Office

名大祭は、名古屋大学の同窓生にとって共通する思い出であると同時に、名古屋大学と地域・社会を結ぶ大きな役割を果たしてきました。今号では、名大祭をはじめ、名大生の手による社会貢献や多方面での大きな活躍に焦点を合わせ、その様子をご紹介します。

Meidaisai (Nagoya University campus festival) plays an important role in connecting the university and the local community, as well as being a shared memory among alumni/ae. In this issue, we introduce activities done by Nagoya University students with a focus on their great success in various fields and contribution to society, including *Meidaisai*.

特集1

名大祭のいま
The Current State of Meidaisai

第52回名大祭本部実行委員会
委員長　蟐川内　大（経済学部3年）

52回目の開催となった今年度の名大祭は、6月2日（木）の午後から5日（日）まで、「常笑気流!!」というテーマを掲げ、実施された。1回目の開催時とは期間も形態も変わっているが、「名古屋大学の学生自治の祭典」というその本質は何も変わっていない。私たち実行委員は名大祭の開催意義を「名大生の想いを社会に向けて発信すること」と捉え、現代の名大祭を創っている。特に今年度は東日本大震災の発生に伴い、名大祭自体の中止も検討された。しかし、「名大生の想いを発信することをやめてはならない」という考えから名大祭の開催は決まったのである。このように、今も名大生が中心となり、名大生の想いを体現する場として名大祭は続いている。ここで、第52回名大祭の様子を少し紹介することにする。

名大祭の開幕は、第1回目の開催から続く新入生主体の仮装行列から始まる。その後、もう1つのプレ企画である大須でのスケート企画の開催を経て、いよいよ名大祭本番がスタートするのである。

名大祭初日の2日（木）は、生憎の雨でのスタートとなった。したがって、オープニング企画は室内での開催となったが、それにも関わらず本当に多くの方に参加して頂き、会場の椅子が足りないほど、来場者で埋め尽くされた。そして、2日目からはその勢いに乗るかのように天候にも恵まれ、まさに名大祭日和の日々となった。3日（金）の夕方には、5年ほど前から始まり、いまや名大祭の恒例行事となっている地域の方々と一緒に創る盆踊り大会が開催された。世代間交流や地域交流が目標となっているこの企画は、小さなお子さんからお年寄りの方まで参加して頂いている。近隣の方々にもこの企画は、6月の一大イベントとして定着しているようであり、普段あまり関わりのない地域と名大生を繋ぐ大切な企画となっている。

4日（土）は、講演会企画「スゴイ日本人になるためには」が実施された。講師に本学総長の濵口 道成先生と東海テレビアナウンサーの高井 一氏をお迎えし、「国際化する日本で必要となる力とは」というテーマでお話して頂いた。在校生の保護者を始め、たくさんの方々に参加して頂き、非常に有意

豊田講堂と第52回名大祭ゲート

盆踊りに参加する地域の子どもたち

氷彫刻の第52回名大祭キャラクター『ニンドくん』

講演会『スゴイ日本人になるためには』の様子

義な講演会となった。

他にも、土日を通し約140団体が有志企画として参加し、それぞれ特長のある企画を展開していた。さらに、屋外のメインストリートでは保健所の指導のもと40店舗の模擬店が出店し、大きな賑わいを見せた。

最終日の5日（日）は、テーマに込められた想いを体現する企画として、「私たちがいつも笑顔であるために ～来たる東海地震にそなえて～」が実施された。この企画は、来場者に正しい防災の知識・情報を得て頂き、少しでも不安を解消し、笑顔を広げたいという想いから生まれたものである。本学地震火山・防災研究センター長の山岡 耕春先生を講師にお迎えし、私たちの笑顔を守るために知るべき防災知識を中心とした話をして頂いた。そして、最後に名大祭を締めくくる企画として、今年度も「後夜祭」が豊田講堂前特設ステージにて実施された。今年度は初の試みとして、土曜日の夜・日曜日の夜と2日間続けての開催を行った。1日目はミス名大祭コンテストの結果発表や火炎旅団による火舞パフォーマンス、2日目はモザイクアートの発表や後夜祭ダンスの披露など盛りだくさんの内容で両日多くの来場者で賑わい、第52回名大祭の幕は閉じた。

メインストリート模擬店の様子

後夜祭企画の様子

また、今年度は「自分達に出来ることは何かないか」と自らに問い、名大祭全日を通じ、東日本大震災の義援金の募集も行った。案内所への募金箱設置、全収益を寄付金に充てる古本市の開催、企画収益金の一部寄付などを合わせ、約55万円もの義援金が集まった。この集まった義援金は、文部科学省「東日本大震災 子どもの学び支援ポータルサイト」を通じ、寄付することが決まっている。

以上のように、名大祭は今も名大生の熱き想いのもと創られている。そして私は委員長を務め、1つ感じたことがある。それは、「名大祭が多くの皆さんに愛され、支えられながら成り立っている」ということである。これが何より学生主体である名大祭が52年の歳月をかけ築き上げてきた、大きな財産ではないだろうか。これからも未来永劫続く名大祭に笑顔が溢れ、皆さんに愛され支えられる名大祭であって欲しいと私は願っている。

そして話は少し変わるが、名大祭本部実行委員会では日頃の大学や卒業生の方々への感謝の意も込めて、ホームカミングデイにおけるボランティアを行っている。昨年度は60名程度の実行委員が参加させて頂いた。その中でも、私を始めとする幹部は「名大ウォーキングツアー」のツアーガイドを務め、名大内の新たな発見や卒業生の方との触れ合いも行うことができ、非常によい経験をさせて頂いた。今年度も同規模のボランティアをさせて頂き、「名大ウォーキングツアー」も名大祭本部実行委員会が担当させて頂く予定である。

最後になったが、第52回名大祭を含め、名大祭本部実行委員会はこれまで何度も全学同窓会支援事業として援助を頂いている。この場を借りて、感謝申し上げたい。（名大祭支援事業の報告は14ページに掲載。）

特集2

活躍する名大生
Nagoya University Students in Action

柔道部

全国七大学柔道大会優勝！

柔道部は、本年6月に札幌市で開催された七大学戦において、2年ぶりの優勝を成し遂げました。ご支援頂きました大学当局、卒業生の皆様に厚くお礼申し上げます。

本柔道大会は、戦前、帝国大学主催のもと、旧制高校などが参加して毎年行われた高専柔道大会の流れを汲むものです。昭和15年に幕を閉じた高専柔道大会は、昭和27年から始まった七大学戦に受け継がれ、今年で60回を数えます。

七大学戦は、高専柔道大会とほぼ同じルールで行われます。その特徴は、15人の団体勝ち抜き戦であること、勝敗は一本をもって決すること、そして最大の特徴は寝技中心の柔道ということです。そのために国際ルールなどでは禁止されている「引き込み」が認められています。引き込みは文字通り、いきなり寝技に持ち込む技です。寝技中心の柔道は、体力、経験に恵まれないナンバースクールの学生が、如何に負けないようにするかを考え抜いた末にたどり着いた柔道です。寝技は立ち技とは異なり、練習さえ積めば、体力や経験に勝るものにも十分に対抗することが出来るのです。

本大会では、熱い試合が毎年繰り広げられています。寝技の試合では相当の力量差があっても勝つのは難しく、また体力を消耗するので、2人以上に勝つのは至難です。逆に言うと、1人の敗戦がチームの敗戦に直結します。そのため、選手は考えられないような粘りを発揮します。絞め技がきまった場合でも、まいったをするような者はおらず、落ちるまで頑張り続けます。強制されているわけではなく、ただただチームのために己を犠牲にして頑張るのです。

七大学の柔道部員は、この大会に学生生活のすべてをかけて、猛練習を積んでいます。我々も「練習量がすべてを決定する柔道」をモットーにして、体育会の中でも1、2を争う厳しい練習を行っています。その中で掴んだ優勝だけに、感慨もひとしおです。

瓜谷章（柔道部部長、工学研究科教授）

優勝杯、優勝旗を手に、2年ぶりの優勝を喜ぶ選手と OB

名古屋大学環境サークル Song Of Earth

「名古屋大学環境サークル Song Of Earth」は、1994年に環境活動に興味がある有志十数名が集まって結成されました。「Song Of Earth」は略して「SOE」と書き、「そえ」と読みます。1998年2月は信頼と安心の名古屋大学文化サークル連盟（文サ連）に加盟し、現在メンバーは40名程です。身近な大学という場での環境問題に取り組むことで、環境問題に対して努力し何らかの改善を見いだすことができるという希望を増やそうと、さまざまな活動をしています。

◆リユース市

「名古屋大学下宿用品リユース市」は、卒業生の方からまだ使える家具や家電製品などを提供してもらい、それを新たな引き取り手へ引き渡す活動です。下宿用品の再使用（リユース）によってごみの減量化を図り、環境負荷の少ない循環型社会の形成を目指しています。毎年春に名古屋大学で開催していて、新入生をはじめとする大学生及び地域の方々を対象にしています。ここ数年はテレビなどのメディアにも取り上げていただいており、また、2005年、2006年、2007年に全学同窓会大学支援事業において助成金をいただきました。

◆花いっぱい運動

第一グリーンベルトの両脇の、豊田講堂へ向かって行く道のところに、プランターが並んでいるのをご存じでしょうか。年に2回植え替え作業を行い、サークルメンバーが交代で水やりなど世話をしています。花が元気に育っているのを見ると嬉しいです。

◆大学内のごみ拾い

月に1回、大学内のごみ拾いを行い、ごみの落ちている状況などを大学に報告しています。現在は大学内だけの活動ですが、今後は大学外にも活動を広げていきたいと考えています。

◆千種児童館訪問

半年に1回ほど、千種児童館で子供向けのイベントを行っています。「エコすごろく」や「エコクッキング」など、子供たちに楽しんでもらいながら、環境について少し考えてもらえるようなイベントを行っています。毎回元気いっぱいな子供たちがたくさん参加してくれて、私たちも一緒に楽しんでいます。

代表：服部将典（情報文化学部2年）
問い合わせ先：song_of_earth_soe@yahoo.co.jp
HP：http://www2.jimu.nagoya-u.ac.jp/soe/

豊田講堂でのリユース市

テレビの取材を受けるリユース市

学内のごみ拾い

牛乳パックを使ったエコ工作

同窓会ニュース　NUAL News

名古屋大学全学同窓会台湾支部創設される

名古屋大学全学同窓会代表幹事
伊藤　義人
昭和50年工学部卒、昭和52年修士修了
名古屋大学情報戦略室長

平成23年7月9日（土）に台北駅前のシーザーパークホテルで、名古屋大学全学同窓会の記念すべき10番目の海外支部となった台湾支部の設立総会が行われました。100名を越える名古屋大学卒業生・修了生が台湾にいますが、当日の参加者数は43人（男性:20　女性:23）でした。大学側からは濵口総長、鮎京法学研究科長はじめ6名にご出席いただき、全学同窓会からは、連携委員会委員長の中野先生と私が参加致しました。台湾は名古屋より暑く、日中は外を歩くのがつらい気候でした。

台湾支部の設立に関しては、2007年から話が出始めましたが、種々の情勢が整わず設立までに時間がかかりました。平成23年6月には2回目の事前打ち合わせのために私が台湾に出向き、支部規程や総会の進め方をあらかじめ相談していました。

17時からの設立総会では、まず同窓会関係者だけで支部規程制定の議論から始めました。富田哲さん（淡江大学外語学院）が日本語と中国語の両方で司会をして、支部名称を「台湾名古屋大学同窓会」とすること、支部を台北駅前の王富民さん（後で幹事長に指名）の特許事務所に置くこと、役員は、会長1、幹事長1、幹事6、監事3とすることなどは直ぐに決まりましたが、役員をどのように選ぶかで議論がありました。結局、すべて選挙で選ぶという原案を一部修正し、会長と監事は総会において選挙で選び、幹事長と幹事は会長が指名することになりました。会費などについてもかなり議論があり、日本における普通の同窓会総会とは趣を異にしました。その後、会長（支部長）として、簡玉聰さん（高尾大学）が選ばれ、3名の監事も選任されました。名古屋大学への寄付などについても検討されましたが、具体的には役員会で対応することになりました。

18時から、濵口総長らにも参加いただき、記念式典が行なわれました。濵口総長が最初に挨拶され、10番目の記念すべき海外支部であり、今後の留学生受け入に協力を依頼されるとともに、名古屋大学の近況についても触れられました。その後、代表幹事として私から、豊田会長の祝電を披露するとともに、全学同窓会設立の経緯や理念を説明し、大学が管理することになった電子名簿にインタネットでアクセスし、住所変更を行ってほしいこと、名古屋大学の国際交流拠点となっていただきたいことをお願いしました。この後、濵口総長から、簡支部長に支部認定証、支部旗および記念品が贈られました。最後に簡支部長から、これまでの設立経緯と、名古屋大学に世話になったお礼に、大学を支援したい旨などの立派な挨拶がありました。式典の後で参加者全員の記念撮影が行われました。

18時半から同じ場所で懇親会が行われました。懇親会の中で簡支部長から、幹事長として王富民さん、ほか6名の幹事の指名がありました。濵口総長が、各テーブルを回わられ乾杯とともに記念撮影をされました。参加者一同が大変楽しんだ和やかな会になりました。最後に、このために参加いただいた鮎京法学研究科長の挨拶などがあり盛会の内に懇親会は終了しました。

支部旗の授与

簡支部長の挨拶

記念写真

大学支援事業目録贈呈

4月20日、平成23年度第1回幹事会において、全学同窓会大学支援事業（平成22度第2回）採択者に目録が贈呈されました。

今回は、応募総数9件から、3件が採択され、採択事業代表者のお一人として益川先生も出席されました。これら事業の内容は、実施後に本誌で紹介するとともに、全学同窓会HPでも公開する予定です。

全学同窓会では、ホームカミングデイ開催支援や寄付講義実施支援の他、平成16年度から公募型の本事業を開始し、年2回（8月と2月）募集を行っています。平成22年度までに、学生活動支援26件、本部・部局行事支援8件、就職支援5件、その他10件を支援しており、これまで採択された事業の報告は、全学同窓会HPで公開しています。

採択事業代表者の方々

全学同窓会韓国支部が寄附

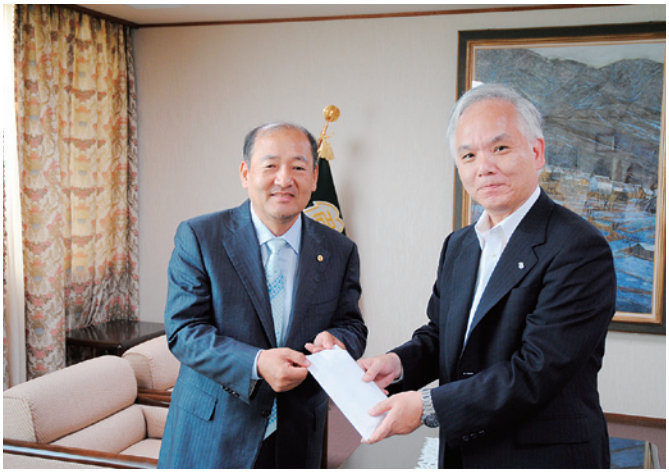
韓国支部から、東日本大震災で被災した名古屋大学学生等への支援を目的とした寄附がありました。寄附金は、6月28日（火）に本学を訪問された王成宇韓国支部長から、濵口総長に直接手渡されました。

韓国支部は、全学同窓会の最初の海外支部として、平成17年5月に設立され、50名を超える会員が総会、親睦会等の活動を行っています。

当日は、金光旭名城大学研究員（本学法学研究科修了）も同行され、全学同窓会からは、伊藤義人教授（全学同窓会代表幹事）、中野富夫准教授（全学同窓会連携委員長）が同席しました。

総長は、王支部長に深い謝意を伝えられるとともに、今後も名古屋大学を支援いただきたいと述べられました。

その後の歓談では、東日本大震災による計画節電への名古屋大学の対応や、韓国と日本との双方向交流推進プログラム「キャンパス・アジア」構想など、両国の高等教育を取り巻く状況について意見交換が行われました。



王支部長から義援金を受け取る濵口総長

活躍する会員たち　NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第13回は、経済学部を卒業され、現在商船三井でご活躍の武藤光一社長へのインタビューと、大学院教育発達科学研究科を修了後、現在福岡教育大学で教育社会心理学を研究されている黒川雅幸先生のご活躍の様子をお送りします。

The “NUAL People in Action” column features our alumni/ae playing active roles in various fields. The 13th article in this series deal with Mr. Koichi Muto, a graduate from the School of Economics, who is currently a representative director of Mitsui O.S.K Lines Ltd., and Dr. Masayuki Kurokawa, who received his Ph.D. from the Graduate School of Education and Human Development and is currently conducting research on socio-educational philosophy at the Fukuoka University of Education.

武藤　光一さん

昭和51年 3月　名古屋大学経済学部卒業
同　51年 4月　大阪商船三井船舶株式会社入社
同　63年 4月　商船三井客船株式会社出向
平成 3年 6月　不定期専用船二部傭船課長
同　 6年 6月　MITSUI O.S.K LINES (EUROPE) LTD. 出向（ドイツ駐在）
同　10年 6月　鉄鋼原料・不定期船部副部長
同　11年 4月　ナビックスライン株式会社と合併　株式会社商船三井と社名変更
　　不定期船部副部長（兼）不定期船部不定期船運航チーム課長
同　14年 6月　不定期船部長
同　15年 1月　経営企画部長
同　16年 6月　執行役員就任
同　18年 6月　常務執行役員就任
同　19年 6月　取締役　常務執行役員就任
同　20年 6月　取締役　専務執行役員就任
同　22年 6月　代表取締役　社長執行役員就任

世界一の船隊規模を誇る商船三井の武藤社長に聞く

片岡―　ご多忙のところ有難うございます。最初に、大学時代は…

武藤―　ボート部に入ってました。一色大橋にある艇庫から大学に通ったんです。ボートは、スタンドプレーは意味がない、ひとりが手を抜いても分かりません。全員が「貢献するぞ」と強い意識でやるチームプレイの典型的スポーツです。

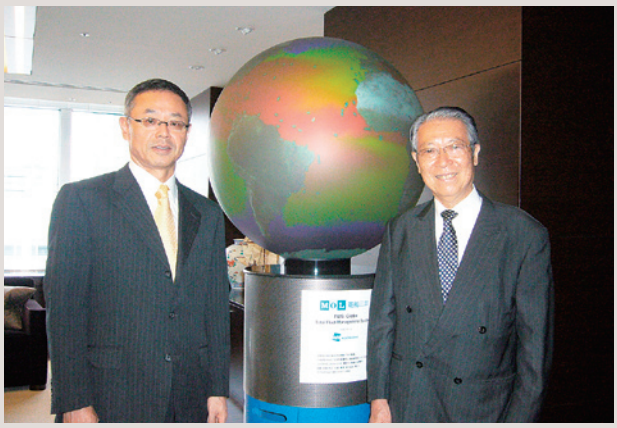
　経済学部経営学科で、企業の組織行動・人材資源活用をテーマとして、ピーター・ドラッカー等の文献を読みながら、人間は何によって動機付けられるか、やる気を出すかという原点を勉強しました。同時に近代経済学の教科書「サミュエルソンの経済学」も何回も読み根底にある経済理論も習得し理解を深めたつもりです。

―　商船三井に就職された動機は…

　父が海軍兵学校出身で戦時中は海軍にいました。そのため、家には船の絵が掛けてあったり、小さい頃から軍歌を聴いたりしていました。中学を卒業するとき、父から鳥羽商船高専を勧められたが普通高校に行って、大学進学時も東京商船大学はどうかとの話があったが、それにも従わず名古屋大学経済学部に入った。で、就職するときに「船会社があるぞ」という。商船三井について調べてみると、比較的少ない従業員数だが、やっていることは世界的な展開。東京本社で入社試験を受けました。昭和48年の第一次石油ショックの後遺症で採用人数は絞られ就職は厳しかった。運よく入れたんですけど。

―　入ってからいろいろ経験なさってますよね。

　会社に入っても、ボートをやってました。海運会社の対抗戦の前になると、埼玉県戸田市にある艇庫に泊まりこみ朝早く起きて練習し、その後会社に出て、夜 戸田に戻りまたオールを漕ぎました。社長になる前までボート部の部長でした。海運会社ということもあり社内レガッタも恒例行事として長く続いています。30歳代半ばで3年ほど子会社の「商船三井客船」に出向しました。本社の貨物船とは全く異なる客船事業でしたが、「ふじ丸」（1989年竣工）「にっぽん丸」（1990年竣工）の、戦後初めて日本で建造された大型客船に計画段階から携わることができたのは貴重な経験でした。当時、日本籍船の乗組員は全員日本人と規定がありました。しかし本格的な客船のサービスを提供するには人手が必要で、全員日本人で



商船三井の世界中の船をリアルタイムに表示するシステム
（FLEET MANAGEMENT SYSTEM GLOBE）の前で

はとても黒字は見込めません。事業として成り立たせるためには賃金の安い外国人の雇用が必要ですが、規則で認められていない。所管省庁や労働組合など、説得に歩きました。その結果、一定条件の下で認められた。当時としては画期的なことでした。1994年から3年間ドイツに駐在し帰国してしばらく後、不定期船部長に、2003年に経営企画部長になった。鉄鉱石・石炭・穀物などを輸送する不定期船部門は、運賃市況が毎日変動するというリスクが大きい分野ですが、大きな利益を上げられる可能性もあります。大きく変動するマーケットに対峙してきたという経験が、決断・判断をする上で非常に役に立っています。ひと言で海運業といっても輸送する貨物、契約形態により様々な分野がありまして、お客様と10年以上の長期にわたって輸送し安定収益を期待できる部門もあります。安定収益を確保しつつ、マーケットの状況に機敏に反応してゆくグローバル「ポートフォリオ経営」の構築に取り組んでるのです。

— 世界を睨んだロマンがありますね。

— ところで、今回の東日本大震災では、

当社の被害は最小限に食い止めることができました。全世界で、運航している900隻余りの船舶全てを24時間監視・支援しているセンターがあって、震災後直ちに関係船宛て避難命令を出し全船が難を逃れました。

— 復興支援にも全力を尽くされたのですね。

復興支援は、スピードが重要。翌日12日に対策・支援本部を立ち上げた。義援金の申し出、役員・従業員による募金のほか海運本業による支援、フェリーによる自衛隊の輸送協力、コンテナ船での国際救援物資輸送の無償引き受け等を実施した。グループ会社のトラック輸送により支援のロジスティックスを構築し、陸上ルートでも、直接被災地へ支援物資を届けました。

— 3.11以降、グローバルな視点から今の日本はどんなふうに見られていますか。

日本は復興する国力はあるが、今は将来を見通すことが難しい状況です。消費電力を15%削減といったって、簡単にできない。すると、脱日本も検討せざるを得ない。一方、円高がここまで進むと日本の輸出産業は難しい。今は中国、韓国をはじめ多くの新興国と競争してますから、今の為替レートでは勝てないです。グローバルな競争で日本が優位に立つシナリオが見えないというのが多くのビジネスパーソンの抱く不安ではないでしょうか。韓国は、安いウォンの恩恵もありますが、新興国マーケットにはどんどん出て行くグローバルな世界戦略でやっており、腰が定まっているのです。

日本の最近の学生さんは日本国内に安住しているところがみられる。だから、もっとグローバルな視点を持つように導いてあげなきゃ。全学同窓会は、そのために大きな貢献ができると思います。双方向の情報交換と人的交流があっていい。アジアを中心にした伸びゆくマーケットと共にグローバルに成長していくという戦略を描けないと今の生活レベル自体も維持できないのではと危惧します。名古屋大学は「地方名門大学」なんていわれることは恥です。グローバルに、日本を飛び越して世界の中の名古屋大学になるといい。ハーバード大学への日本人留学生がじり貧になって寂しい限りです。ハーバードとか、MITとかどんどん行ってほしいです。名大は、自由闊達に、裃を着ない議論ができる風土がありますよ。これからは業際を越えて、いろんな人が集合しながら1つのものを作り上げていくという時代でしょう。総合大学の強みをどんどん生かしていくことを期待します。

— ところで、御社の環境面では、最近ソーラーでゼロエミッションの船「維新」シリーズができるという話を聞きましたが。

ソーラーパネルを自動車専用船の甲板上に可能な限り広範囲に搭載し、太陽光エネルギーをリチウムイオン電池に蓄電しておき、港内では蓄えた電力で船内の電気を賄う。停泊中はゼロエミッションで港町に影響を与えない。船会社は、国際海事機関で CO_2 の削減規制がある。環境対応の船を三菱重工で造るんです。環境対応の最先端をいく船です。

最後に、今、中国の勢いがものすごい。中国と伍してどうやって戦っていくか。生半可な心構えでは勝てないです。学生は厳しい世界の中で競争していく現実を知って将来の大きな夢をもって欲しいです。

— 本日は、ありがとうございました。

（文責：インタビュアー　片岡大造）

黒川　雅幸さん

■略歴
2007年　名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程（後期課程）修了
2008年　福岡教育大学教育学部講師
2009年～福岡教育大学教育学部准教授
専門は教育社会心理学。博士（心理学）。現職で4年目を迎えている。主に、1）小・中学生の仲間関係の研究、2）いじめの研究、3）もったいない情動の研究を行っている。

■社会活動
2008年度　唐津市教育委員会「スクールソーシャルワーカー事業」スーパーバイザー
2009年度　福岡県教育委員会教育職員免許法認定講習講師
2009年度～教員免許状更新講習講師
2011年度　福岡市教育委員会教育職員免許法認定講習講師
2011年度～日本カウンセリング学会編集委員

■所属学会
日本社会心理学会
日本教育心理学会
日本グループ・ダイナミックス学会
日本カウンセリング学会
Asian Association of Social Psychology

■福岡教育大学

私が勤務している福岡教育大学は福岡県宗像市というところにあります。宗像市は北九州市と福岡市の真ん中に位置し、人口約9万5千人の市です。緑が多くて、大学の裏には城山という400メートル弱の小高い山があります。野生のイノシシやタヌキを学内で見かけることもあり、のんびりとしたところです。福岡教育大学は教員養成系の大学であり、私の所属する講座でも小学校の教員を養成しています。『「将来を担う子ども」を教育する教師』を育てることが教育面での仕事で、とてもやりがいがあります。現在までにゼミからは3名の小学校教員を送り出しています。

福岡教育大学は小規模な大学ですので、教員もそう多くはありません。そのような環境でも、学内の委員会で、たまたま知り合った先生が名古屋大学出身者ということがありました。名古屋アイデンティティが一気に顕在化し、東山キャンパスやその周辺の話題で盛り上がりました。このような離れた場所でも名古屋大学出身者が活躍してい

心理学概論の授業風景

ることを思うと、名古屋大学の偉大さを改めて感じさせられます。

■偽りの充実感？

現在は、研究、教育、社会貢献、大学運営と忙しい日々を送っております。大学教員である以上は、少なくともこれら4つの領域の仕事に責任をもって取り組まなければならないと思っています。

しかしながら、厄介なのは、4つの領域の満腹中枢が一緒になっていて、どこかの領域が満たされると、全般的に充実感を味わったような気になってしまうことがあるのです。授業期間であれば、教育に費やす時間が長くなり、研究をしないでも、教育による充実感で全般的に充実した日々を送っているかのような錯覚に陥ってしまうのです。

充実感を味わっても、それは教育領域でのことであって、常に他の領域はエンプティーだということを意識できなければ、全ての領域の責任を果たすことは難しいように思えます。この偽りの充実感で自分をごまかさないようにすることが大学教員としての課題であるように思っています。

今のところは、偽りの充実感に満足せずに、ハングリー精神で研究活動や社会貢献に取り組んでいます。就職してからは、国際学会での発表にも継続して参加しています。

■1人立ちの苦悩

名古屋大学時代はＤゼミというゼミが隔週で行われていました。Ｄゼミの Ｄはドクターを取得するという意味です。社会心理学の2つの研究室が合同で主催しているものです。また、近隣の大学へ就職した先輩方も来られていました。Ｄゼミの中で、様々な人の意見を聞き、自分の意見を確立させてきました。ゼミの中での意見交換はもちろんですが、その後で開かれるお食事会での何気ないやりとりが、研究を大きく前進させることもありました。

福岡教育大学に着任してすぐの頃、院生時代に当然だった議論の場がないことに苦しみました。研究するにあたって、仲間と集うことがいかに大切であるかを思い知らされました。1人でアイデアを出しても、それが正しいか、間違っているか、他にもっと良いアイデアはないかなど、頭の中で何役も演じて考えなければなりません。しかし、研究には他人には見えていて、自分には見えない部分というのがあるものです。やはり、限界を感じました。

1年も経たずして、九大から非常勤に来て頂いている若手の院生などに声をかけて、勉強会を開くようになりました。定期的に開くことはまだまだ難しいですが、ちょっとずつでも研究の議論ができる場を作っていけたらと考えています。

■指導教員への感謝

私の指導教員はとても厳しい先生でした。喩えるならば、サザエさんに出てくる磯野波平のように厳格な先生です。私はカツオのようにいつも厳しく指導をされてきました。後期課程に進学する時には、進学するのは難しいかもしれないとも感じていました。それでも、先生の教えに忠実に従ってきたことが、早く学位を取得し、就職が決まったことに繋がったと思います。

名古屋大学には前期課程からお世話になっているのですが、先生の初めの指導は今でもはっきりと思い出せます。他大学にいた自分が学部4年生の夏に研究室訪問へ行った時に言われたことで、「好きなこと（研究）をやりたければ35歳になってからだ」でした。その言葉には、「心理学で研究機関に就職するには、自分の興味・関心だけではなく、社会への貢献も考えた研究をしなければ受け入れてもらえない。自分が本当にやりたいことは就職した後（それが35歳くらい？）から始めても遅くはない。就職できないと食べてはいけない。」という意味が含まれていたと思います（先生との付き合いから、後に本人が勝手に解釈したものである）。

今こうして、筆が執れるのも、指導教員を始め、社会心理学研究室の先生方、先輩方のお陰であると思っています。

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。それぞれが全学同窓会と連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部 NUAL Kanto Branch

名大関連イベントへの関東支部会員の参加

・2月4日　二葉会東京支部総会に片岡が参加し、全学同窓会の使命と行事、世界での支部開設の現況と名大基金への協力を説明・お願いしました。

・2月17日　内閣府の最先端研究開発支援プログラムの公開シンポジウム「ナノバイオデバイス研究の最前線」（馬場嘉信教授より依頼）に参加しました。

・7月1日　第52回本多記念賞を、坂公恭教授が受賞され、授賞式が学士会館で開催され、片岡が出席しました。

名大留学生への支援

・昨年より、ウズベキスタン留学生の論文作成の相談にのり、ADR（裁判外紛争解決手続）をテーマに、側島幹事の紹介により、5月20日、西村あさひ法律事務所の同窓生の鬼頭季朗弁護士等に我が国の実態のレクチャーを実施しました。

国際交流

・上記を契機に、西村あさひ法律事務所は、ウズベキスタンの名大日本法センターへの寄附講座をする事を、法学部・CALE 市橋センター長などと訪問し、本年度から実施を打合せ中です。

産学官連携支援

・片岡が、昨年より大学と連携して推進し、トヨタ自動車や豊田市に、名大のスマートグリッド関連の研究陣を紹介し、豊田市の実証実験とのマッチングの会議を何回も開催した結果、「次世代エネルギー・社会システム実証事業」の豊田市の実証協議会に、名大を特別会員として参加が決まりました。また、文部科学省と経済産業省の「緑の知の拠点事業」「次世代エネルギー技術実証事業」公募の推進にも協力しております。

学士会

・7月29日　全学同窓会副会長の東レ代表取締役会長の榊原定征さんが講師となって学士会主催で「若手交流会」が開催され、「ものづくり立国」としての基盤強化について」という題名の講演と交流会に80名余りの若手が出席し、盛会でした。

幹事会

・4月27日、8月5日と開催し、伊藤代表幹事の出席も得て、名大の状況理解、全学同窓会の理念に、一致協力して対応してゆくこと等を確認しました。

西村あさひ法律事務所

関東支部幹事会

■連絡先　関東支部事務局長　片岡　大造
kataoka@tokyo-office.sat.nagoya-u.ac.jp

関西支部 NUAL Kansai Branch

関西支部では、平成23年7月30日（土）、大阪弥生会館に於いて、支部幹事会が開催され、11名の幹事が参加しました。幹事会は関西の各学部・学科同窓会の責任者が参加され、今年度の全学同窓会関西支部総会の開催要領や、ホームカミングデーへの参加企画などが話し合われました。また、今年度の各学部・学科支部同窓会の行事予定を調査した結果は下記の通りで、関西地区在住の会員の皆様にはぜひともご出席いただきたくお願い申し上げます。

東山会 関西支部	行事	総会　懇親会
	開催日	平成23年11月5日（土）
	場所	大阪弥生会館
	責任者	支部長 安田幸伸（S39卒機械）
鏡ヶ池会 関西支部	行事	総会　懇親会
	開催日	平成23年11月18日（金）
	場所	グランド白楽天
	責任者	支部長 浜嶋鉱一郎（S47卒土木）
		幹事長 鳥居 剛（S54卒土木修）
関西名法会	行事	総会 講演会（講師は相良博美弁護士 S49卒）を予定 懇親会
	開催日	平成23年11月18日（金）
	場所	大阪弥生会館
	責任者	会長　　脇田喜智夫（S50卒法学）
		事務局　和久利俊次（S49卒法学）
セコイア会 関西支部	行事	総会　懇親会
	開催日	平成23年11月19日（土）
	場所	大阪弥生会館
	責任者	支部長 加藤壽郎（S43卒農学）
二葉会 関西支部	行事	総会　懇親会
	開催日	平成23年11月26日（土）
	場所	大阪弥生会館
	責任者	支部長 藤井眞澄（S44卒電気）

関西キタン会	行事	新年懇親会　総会懇親会
	開催日	新年懇親会 平成24年1月21日（土） 総会懇親会 平成24年7月
	場所	新年懇親会 ホテルグランヴィア大阪 総会懇親会 ホテルグランヴィア大阪
	責任者	支部長 伊貝武臣（S43卒経済）
		副支部長 入谷善久（S43卒経済）
共晶会 関西支部	行事	総会　懇親会
	開催日	平成24年3月第二土曜日
	場所	大阪マルビル　大阪第一ホテル
	責任者	支部長 木村雅保（S50卒金属）
応化会 関西支部	行事	総会　懇親会
	開催日	平成24年6月9日（土）
	場所	大阪弥生会館
	責任者	支部長 爾見軍治（S29卒応化）
		支部長代理 澤田澄夫（S34卒応化）

■連絡先　関西支部長　筧　哲男
E-mail:secretary@sanyo-chemical.com

名大遠州会

名大遠州会同窓会と益川敏英名大特別教授講演会

名大遠州会と名大全学同窓会との共催による名大特別教授益川敏英先生の「現代社会と科学」と題した講演会を6月11日（土）15時30分から浜松市内会場で開催しました。遠州会会員・同窓生・家族、招待者、高校生、一般公募市民合わせて320名を超える出席者が益川先生のご講演を傾聴しました。講演終了後の高校生からの質問に対しても、先生は分かりやすくお答えになりました。講演会の様子は中日新聞や静岡新聞に写真入りで大きく取り上げられました。講演会の後、オークラホテル浜松に移動して18時30分から、第16回遠州会同窓会を開催しました。来賓として濵口名大総長、ご講演を終えられたばかりの益川先生、伊藤全学同窓会代表幹事をお迎えし、会員100余名が出席しました。遠州会物故会員と東日本大震災の犠牲者に対する黙祷で始まり、遠州会庄田会長の挨拶に続いて濵口総長から名大の東日本大震災への支援活動、震災後の社会への大学の役割、名大における人材育成の取り組み、大学の国際化と名大生の国際化、新研究組織の創設など多岐に渡って、大学の将来ビジョンとそれへの取り組みを平易に、かつ力強く語られました。懇親会は女性演奏者2人によるハープとフルートの合奏をバックにして始まりました。会が進むにつれ、多数の出席者が濵口総長と益川先生のテーブルに集まり、記念撮影をお願いしたり、益川先生にサインをお願いしたりして、大いに盛り上がりました。来年の同窓会にはまた出席することを皆で約束して21時前に終了しました。　（事務局　原田　記）

濵口総長、益川先生、伊藤先生を囲んで

二の丸会（名古屋市役所の法学部同窓会）

平成23年8月31日（水）18：30からKKRホテルにて名古屋市役所における名大法学部の卒業生の同窓会である「二の丸会」が開催されました。大学からは鮎京正訓法学部長、中野富夫准教授の2名が出席しました。

現在名古屋市役所には、法学部の同窓生が約410名在籍しており、今回はうち38名の出席者がありました。

まず二の丸会会長の伊藤彰教育長（S51年卒）の開会の挨拶、その後来賓として鮎京法学部長からの挨拶及び大学の近況についての説明、中野准教授からの挨拶がありました。鮎京法学部長からのグローバル30に代表される大学の国際化の説明に、多くの卒業生は自分の学生時代との変化に驚きつつ、興味深く聞き入っていました。

鮎京法学部長の音頭での乾杯の後、懇親会に移りました。懇親会では、今年入庁した5名（全体7名）が順番に自己紹介及び名古屋市役所に入庁しての感想を述べて、和やかな雰囲気の中で会は進行しました。会も盛り上がった頃に、二の丸会の前会長で現名誉会長である、入倉憲二副市長（S48年卒）から挨拶及び今年入庁者への激励の言葉があり、新規採用職員は決意を新たにしていたようです。予定した2時間があっという間に過ぎ、最後に入倉副市長の締めの言葉でお開きとなりました。昨年に続いて法学部長および教員が会に出席したことで、大学と同窓生との絆を一層深めることが出来ました。

「二の丸会」懇親会の様子

同窓会支援事業　NUAL Support Project

全学同窓会では、全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生支援、就職支援事業、本部・部局による行事・寄付講義等）への支援を目的として、年2回募集を行っております。平成21年度及び平成22年度（前期）採択事業から、4件の報告をいただきました。

NUAL commenced an open invitation type support project from 2004 for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association. The following are summaries of the activity selected in 2010.

教職員を対象とした学生のメンタルヘルスに関する研修および冊子作成

申請代表者：坂野尚美
（国際交流協力推進本部　特任准教授）

本事業では、「真心（まごころ）×時間＝支援力～教員が変わる　学生が変わる　名古屋大学が変わる～」と題して、2010年5月～2011年1月に8回の研修を行いました。8回の研修参加者の合計は、144名でした。この研修の内容については、2011年3月に冊子として発行しました。

研修内容は、大きく分けると3つになります。①アドバイジング・カウンセリングの基本姿勢②名古屋大学内の実践的な取り組みと対応③外部講師からの講演です。②の学内の実践的な取り組みや対応では、保健管理室の精神科医、留学生センターアドバイジング・カウンセリング部門　海外留学室、学生相談総合センター就職相談部門の教員による講演を実施しました。また③の外部講師では、情緒障害や学習障害、引きこもりなどの問題を抱えている子どもの親の会「じゃんぐるじむ」の活動についてご講演していただきました。また作家であり精神科医である　なだいなだ氏をお招きして、幅広い方々にメンタルヘルスの早期支援に役立てていただける講演を開催しました。

この教職員研修に参加いただいた教員の推薦で、2011年6月に開催された農学部の教職員講習会の講師として話す機会を頂きました。この事業で学生のメンタルヘルスの早期支援に役立てる教職員研修の必要性と、名古屋大学内の連携の大切さを実感しました。名古屋大学内の教職員研修の必要性を感じられる教職員の方がおられたら、教職員研修等実施は今後も続けていきたいと思っておりますので、遠慮なく御声をかけてください。宜しくお願いします。末筆になりましたが、本事業に御支援頂きました名古屋大学全学同窓会に心よりお礼申し上げます。

研修の様子

「名大祭」の開催準備および運営

申請代表者：蟐川内　大
（名大祭本部実行委員長　経済学部3年）

第52回名大祭は「常笑気流 !!」のテーマのもと、上記日程で開催され、無事成功を収めることが出来た。昨年よりも来場者数が約4千人増加し、非常に多くの方々に「名大生の想い」を伝えることが出来たと思われる。今回は目玉企画として、本学総長の濵口道成先生と東海テレビアナウンサーの高井一氏による「スゴイ日本人になるためには」という講演会を実施し、この国際化が進む日本で生き抜く方法をそれぞれの視点からお話して頂いた。他にも、それぞれの特色のある数多くの企画が4日間にわたり展開され、笑顔溢れる名大祭となった。

豊田講堂前に集まる参加者たち

「間違ってない　名大グッズ研究会」第3回展示会の開催

申請代表者：原　俊亮
（情報文化学部3年）

名大グッズ研究会は2011年4月5日～15日にかけて、名古屋大学内の「clas」ギャラリーにおいて新しい名大のグッズを提案しました。「名大グッズ」この言葉を聞いてどんなものを思い浮かべましたか。いろいろなグッズがあると思いますが、そのグッズは他の大学のものとどこが違うでしょうか。「名大らしさ」のあらわれたものでしょうか。

今回、どのようなグッズが良いか考えるにあたり同窓会理念を参考にさせて頂き、現役の名大生に留まらず、新入生、教職員、OB・OG、地域の方々など様々な人も対象にコミュニケーションが生まれるグッズを心がけました。

制作したのは「名大カード」です。真っ白で特徴のないものだからこそストレートに名大らしさがあらわれるグッズになるのではと考えました。内容は、教授のことがわかるバトルカード、特徴的な建物のジオラマ、大学構内の散策の道しるべとなるしおり、統一のなされていない名大ロゴを集めたシール、名大の日常を描いた占いで、これらをパッケージにしたものがカードダスの機械から出てきて楽しめるよう工夫しています。展示成果として、口コミが拡がって展示に遊びに来てくれる人がいたり、教授同士でカード交換が行われるなど、名大について盛り上がることで交流が生まれており、商品化に向けての手応えも感じています。また期間中、名大生協ともディスカッションを行い、実際の販売に向けて前向きに動き出すことができました。何よりも、展示を訪れた方やその話を聞いた方たちが名大らしさについて考え、名大を想ってくれたことが成功と感じています。

本事業をご支援して頂きましたことを心より感謝申し上げます。

「カードダス」機と名大カード

多国籍大学院生執筆の「名大版　英語による他文化体験紹介・検討集」の編集・印刷

申請代表者：Mostafa Yasmine
（文学研究科博士課程後期課程2年）

名古屋大学では多くの留学生を受け入れ、また在学生の海外留学にも力を入れています。私たち学生は、国籍や民族、宗教などを超えて、多様な文化と触れ合いながら日々を過ごしています。

このような多文化環境の中で研究・生活する中で、疑問に思うことや印象に残る経験はたくさんありますが、忙しい生活の中では、それらについてゆっくり話し合って考える余裕がなかなかありません。時には、特定の人や文化についてステレオタイプを持ったり、誤解したままになったりすることもあります。

そこで、経験を共有しながら、多くの視点から解釈し、その成果を多くの方たちと分かち合う目的で、本事業を実施することにしました。留学生や日本人学生たちが、対話から得られた様々な解釈を、異文化コミュニケーション学の観点も入れながら分析してまとめ、執筆しました。

半年以上かけて執筆、編集・印刷した事例検討集を通して、様々なケーススタディーを紹介しながら、特に日本の文化について、さらには、多文化理解を深めることができると考えます。留学生、日本人に関わらず、より多くの人々に手にとってもらえるよう、英語で発表しました。

12の異なるケースを扱っており、例えば、私はバスに置き忘れてしまった大切なサングラスが、人々の手を経て私の手元に戻ったという、私にとっては驚くべき経験について、その背後にある文化を考察しています。A5版68ページの冊子で、学内はもとより、日本国内外の留学生関係諸機関、日本語教育機関、関係者などに送付しました。

この論集は、教育関係の資料としてのみならず、日々の出来事や物事の価値観や捉え方をより寛容にする手段になることが期待されます。今後改訂しながら増刷し、より多くの方たちに利用していただけることを願っています。

今回、本論集を編集・発行するにあたり、名古屋大学全学同窓会よりご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

■同窓会行事カレンダー

第102回名古屋大学医学部学友大会

本年は「名古屋の外科140年史」というタイトルで大会委員長の中尾昭公先生（名古屋セントラル病院院長、名古屋大学名誉教授）が講演されます。

・日時：平成23年11月5日（土曜日）15時～
・場所：名古屋観光ホテル3階那古の間
・第102回名古屋大学学友大会委員長：中尾昭公
・問い合わせ先：第102回名古屋大学医学部学友大会
　電話 052-744-2512

名古屋大学男声東京 OB 合唱団演奏会

・日時：平成24年1月21日(土) 開場 13：30 開演 14：00
・場所：トッパンホール
　東京都文京区水道1-3-3　トッパン小石川ビル
・入場料：1,500円（全席自由）
・主催：名古屋大学男声東京 OB 合唱団
・後援：名古屋大学全学同窓会ほか
・問い合わせ先：電話 045-895-3368　依田直也（代表）
　mail：naka-san@fg8.so-net.ne.jp

〈おしらせ〉

名古屋大学全学同窓会は、名古屋大学と社会を結ぶ必須の組織として平成14年に設立され、来年で設立10周年を迎えます。

事務局からのお知らせ　From the NUAL Office

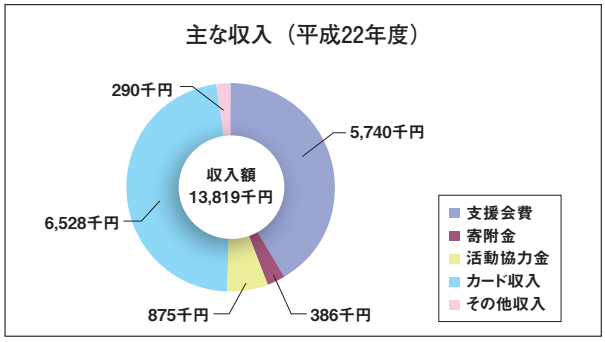
●支援会費のお願い　Call for contributions

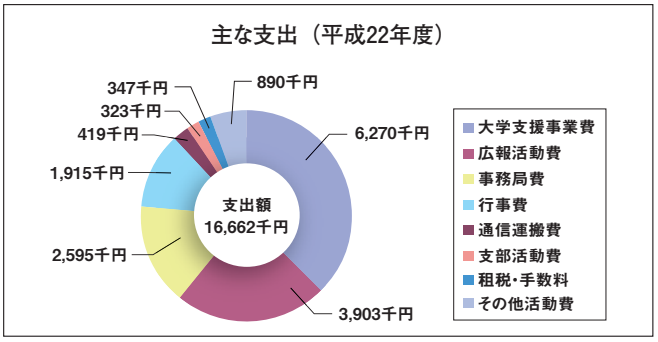
名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられています。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費　Supporting Fee　支　援　会　員 Supporting member　：一口　5,000円
　支援法人会員 Supporting institution：一口　50,000円

○支払い方法　郵便振替 Post Office Account　口座番号：00860－8－113043
　自動引落　利用ご希望の方は、預金口座振替依頼書をお送りしますので、同窓会事務局にご連絡ください。

支援会費、活動協力金等は、大学支援事業や広報誌作成等の設立理念に合致する活動に使わせていただきました。





「名古屋大学カード」でつながる大学支援

年会費永年無料！　家族会員（1名）も無料です。
加入者は、7,400名を超えています！！

OB 企業等による優待サービス
　木工家具、宝石、ビジネス週刊誌などを優待価格でご利用いただけます。詳しくは、下記 Web ページをご覧下さい。

http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/

編集後記

特集では、同窓生と名大生ともに思い出深い、名大祭の本部実行委員長さんから現在の様子についてお話頂きました。ホームカミングデイとともに、同窓生の皆様が名大に足を運ぶきっかけになれば幸いです。

（全学同窓会広報委員会）

NUAL Newsletter No.16 平成 23（2011）年 10 月発行
Nagoya University Alumni Association
NUAL 名古屋大学全学同窓会
〒464-8601 名古屋市千種区不老町　TEL/FAX 052-783-1920
E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp
ホームページ　http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/
編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会